学校における改革ヴジョン

辺土名小学校

関係法規
学習指導要領
「学びの共同体」の理念

【学　校　改　革　目　標】
子どもの学ぶ権利を保障し、学びの質を高める

国頭教育事務所
国頭村教育委員会
「学びの会」

めざす学校ヴイジョン

【柱１】
子どもが互いに学び合い支えあう学校づくり

【柱２】
教師が互いに学び同僚性を高める学校づくり

【柱３】
保護者や地域が学校経営に参画できる学校づくり

◇教師一人一人が使命感をもって「子ども一人残らず子どもの権利の実現と民主主義の学校集団を構築し、学びの実現に努める」

「公共性」
◇学校は公的教育の場であり、公開する義務がある。
◇教室は子どもが学ぶ場である。子どもの教室であり、いつでも公開する義務がある。
◇教師集団は、教育公務員として公共的に組織されている。

「民主主義」
◇子どもも教師も同じ人間、他者を尊重する。
◇子どもの名前は、男女とも「～さん」付けで呼ぶよう努める。（社会的集団）
◇一人一人（すべて）が協同して聴き合う関係を構築する。（他者を認める）
◇学ぶ権利と個々の尊厳を尊い、個性を認める。

「卓越性」
◇教師の使命は「授業」である。絶対に学びの授業レベルを下げない。
◇他者を見下さない。
◇どんな困難な状況においても自己のベストで臨む。
◇子どもにも「なげださない」「あきらめない」レベルをさげないようにする。
◇丁寧さ細やかさで学びを追求する。

【教室環境と授業改革】
◇教室環境の整備充実を図る。（靴箱、机、ロッカー、床等の整理整頓）
◇学習規律の徹底を図る。（学習のルールがあって学びが成立する）
◇低学年は全体学習とペア学習による協同的学びをする。
◇三年以上は男女混合四人グループによる協同的学びをする。
（協同的な学びこそ「目指す学び」の本質）
◇机の配置は「コの字型」とする。
◇「共有課題」（個人作業の共同化）で基礎・基本の底上げを図る。
◇「ジャンプ課題」（協同作業）は必ず設定する。
◇「共有課題」（教科書レベル）と「ジャンプ課題」（教科書以上）で授業デザインする。

【学級経営改革】
◇教室環境に気を配る。
（美しい環境に美しいこころが育つ）
◇「対話」と「協同」のある学びを目指す。
◇画一的な統制をせず、子どもに寄り添い個々の良さに眼を向ける。
（怒るより叱る、叱るより諭し語る）
◇授業での「しゃべり」「説明」を少なく、子ども中心の授業を進める。
（教師 20％　子ども 80％をめざす）
◇教師のテンションと声のトーンを下げて子どもの表情・仕草・声に配慮する。
◇発問や子どもの発表後の「間」を大切にし、ゆっくりと語りかける。
◇子どもとのかかわりを柔らかく、耳を傾けじっくり対話する。

【同僚性の構築】
◇全ての教師が、授業を2回以上公開する。
◇授業の振り返り（研究協議）は必ず行う。
◇子どもの学びや育ちを語り合う。
（固有名で褒め、みんなで褒め、みんなで認め、自己肯定感を高める）
◇子ども、保護者、地域、同僚の不平・不満・愚痴をこぼさない。
◇本気・根気・やる気で「学び合う」
（お互い依存し合える関係づくり）
◇子ども、教師も「学び合う関係」づくりに努める。
◇「プロジェクト型カリキュラム」（主題-探求-表現）づくりを協同で研究する。

【学び合い、伝え合い、支え合う関係づくり】
互いに支え合い　「学び合う」　「伝え合う」授業を成立させるには、「対話」と「協同」のある学びを目指す

【　聴　く　】
◇子ども発言やのつぶやきは何を根拠に発せられたのか。
◇テキストや資料のどことつながって発せられたのか。
◇その子の以前の考えや発言とどうつながっているのか。

【　つ　な　ぐ】
◇学級の仲間とつなぐ。
◇つぶやきや発言につなぐ。
◇テキストや資料につなぐ。
◇いままでの自分、今の自分、将来の自分につなぐ。
◇教室での学びを社会での学びとつなぐ。

【　も　ど　す】
子どもの行き詰まりやつまづいたとき
◇テキストや資料にもどす。
◇課題にもどす。
◇個からグループにもどす。
◇全体から個にもどす。

【学びを構築するための学校を目指して】
◇子ども一人一人を丸ごと受け入れ、教師自信がゆとりをもって愛情を注いでいく学級づくりをする。
◇子どもの机の環境美化があれば、学級の環境美化がある。学級の環境美化があれば学校の環境美化が整う。
◇子ども相互の関係、子どもと教師の関係、教師相互の関係が良くなれば自然と学校全体が良くなる。また、保護者・地域全体が良くなる。

～いい授業を求めているのではない、すべての子どもの学びを保障する授業を求めよう～
あせらず　ゆっくり　しずかに　「すてきな学校」　「活き活きとした学校」　「安心・居場所のある学校」を目指そう